

# 聖アンドリュース病院

1360年  
H.M. エドワード3世 創立



114H グロスベノアストリート

ロンドン精神科

H. モルトン・ウォータース卿

1885年7月14日 ロンドン

NO X.N.6に関する極秘報告

親愛なるセストレード検査官へ

7月10日付けで送付頂きました調査報告書を拝見致しました。貴殿の進められている調査は、警察の優れた収集力によって集められた情報のみによっても、驚くべき能率で進んでおられるようです。全国の犯罪者諸君よ、注意せよ！

貴殿がああ悲しむべき事件の解決を望んでおられることはよく理解できます。1837年11月16日の夜、あの壁にクッションの貼られた精神病者監禁室で起きた惨劇は、それを目撃した全ての人の心に消すことのできない傷跡を残しました。事実、当時の精神科責任者であったヘンリー・ウォルトン卿は、深いショック状態から立ち直れないまま、1838年1月にその職務から引退することを決められました。

私は1人の精神科医として、またこの出来事を目撃者として、未だ深い霧に包まれているこの事件を可能な限り、明らかにしたいと考えています。私は貴殿の思慮深い判断力とその寛大さに大きく期待しています。すでに、あの悲劇の夜から48年もの歳月が経過しており、私の記憶もかなり曖昧なものとなっていますが、私の知る限りの真実をここにお伝えしたいと思います。

患者XN6は、北アメリカ旅行の後、我々の治療を受ける事になりました。私が1836年にセント・アンドリュース病院での勤務に就いた際、XN6は暴力的逆上の突発的な発作を起こす症状がありました。そのような発作は、患者本人にとっても、また周りの人々にとっても危険なものです。壁中にク

クッションを貼った精神病者監禁室に閉じ込めておくことは、患者の安全を保証し、この種の狂人にありがちな自殺の試みを未然に防ぐことになるのです。その高い社会的地位にも関わらず、XN6には家族がおらず、友人も少なかったため、彼と接触する人間は彼の治療に関わったり、彼の体や部屋をきれいにするスタッフ達に限られていました。

当時、最も優秀な精神科医であったヘンリー卿は、XN6に対して個人的に大変な興味を抱き、大胆な治療法を何度も試みましたが、のちに彼の努力はすべて無駄であったことがわかるのですが、XN6の発作はこの治療以降、ますます頻繁に起こるようになりました。

発作の際、XN6は、恐怖の悲鳴をあげながらクッションを貼った壁に体当たりを繰り返しました。口から沢山の泡を吹き、その目は落ち着きなくきょろきょろと動いていました。発作の第二段階では、異常な程の落ち着きを見せ、訳のわからない言語で宗教歌のようなものを詠唱しました。

北アメリカ訪問中に、XN6はいったいどの様な恐怖を体験したのでしょうか？ これは私も同意見なのですが、ヘンリー卿はこの精神崩壊の原因が、彼の苦悶する心の内にあるものと考えました。しかし私達には、どうやってその恐ろしい秘密を引き出せばよいものか見当が付きませんでした。この発作症状はまもなく、何の予兆も無しに止んだのですが、彼は極度の緊張を持続したままの状態にありました。窮屈な拘束着は、その緊張を和らげるために脱がされました。XN6はまるで生きる意志を失ったかのように静かになり、やがて訪れるであろう死に、自らを至らしめる事に決めたかのようにでした。

11月16日、その夜は嵐でした。空気は重苦しく、空では遠雷が鳴り響いていました。患者達は異常に落ち着きがなかったのですが、雨が降り始めるとようやく鎮まりました。

そしてその夜、精神病者監禁室が並ぶ廊下に恐怖の叫びが響きわたりました。午後10時、ヘンリー卿は隣接した部屋で、他の精神病患者を診察していましたが、XN6が大声で叫ぶ声を聞くとヘンリー卿はその言葉に驚きました。-「哀れなる我が主よ」-

その言葉からXN6が正気を取り戻したと考えたヘンリー卿は、夜警のバーンズの警告を無視してXN6の病室に急ぎました。そして病室に入ったヘンリー卿がXN6を覗き込むと、彼の両手が恐るべき早さで卿の両頬を掴んだのです。狂った彼の長い爪が医師の顔を引き裂き、ヘンリー卿の酷く裂けた唇から血が滴り落ちました。XN6は「トゥール フー」とかいう言葉を繰り返し、復讐だ、報復だと訳のわからないことを口走っていました。警棒を携えたバーンズがXN6を制圧しようとする時、彼はヘンリー卿を壁に叩きつけ、驚異的な素早さでバーンズに飛びかかりました。

貴殿も御承知の通り、XN6の指で目をくり抜かれた哀れなバーンズは、数週間後、敗血症によって死亡しました。そして、この事件の明くる朝、XN6は心臓の衰弱により死亡しているのが発見されました。その最期は哀れなものでした。彼が拘束着を脱ごうと体をよじった姿、それは脱皮しようとして体をくねらせる蛇のようでした。その顔は恐怖に覆われ、彼が行った愚かな破壊的行動に、今ようやく、気が付いたかのようにでした。私は彼の“信じられない”という表情を決して忘れられません。彼の最期の口から吐き出した言葉で、彼は死ぬ間際は正気だったことが解りました。

貴殿が既に受けている様々な医学的、法律的な報告によって、必要なことは全てお判りになられたことと思います。

私の個人的なファイルからいくつかの資料を同封します。J.ワトソン医師によって連署された証明書はさておき、これら資料があまり役に立つことはないでしょう。ロビンス船長の報告は当り障りの無いものです。病院に入れられるべき個々の症状があったとしても、XN6にはそれほど多くの症状は見られませんでした。私は彼のスケッチを3枚所有しています。しかし、それらは最近、私の金庫に入れられたままになっています。

この不幸な事件が解決したのなら、どうか私にもお知らせ下さい。私の新しい診療室の住所を書き記します。私は残された自分の生涯を、大都市における貧しい地区に住む貧困という悪魔との戦いに捧げることを決意しました。

限りなく慈悲深き神よ、我々に忘却を与え給え……

敬具

ジャック・ソートン・リーブス 精神科インターン

私設診療室

ミッタースクエア

ホワイトチャペル ロンドン

ジャック・ソートン・リーブス